



NY発

小池絵未の国際機関探訪

「小池絵未の国際機関探訪」の第三弾は国連人口基金本部に行ってきました！

皆さんは、人口のことをやっているのかな？と思っていましたが、それだけではないようです。今回は戸崎智支さんを訪ねました。

◆今回訪問した国際機関

国連人口基金

- 開発支援活動と人道支援との両立
- 人口と開発のバランスを取る
- 1969年に設立され、世界約156カ国で活動している国際機関

◆お話を聞いた方

戸崎 智支さん

国連人口基金 (UNFPA)
本部人事部人事分析官
(※) 本年9月取材時点。



①今の仕事について詳しく教えてください。

国連人口基金での勤務は2年以上になるのですが、人事部門は現在、国際情勢をとりまく変化に対応すべく人事部門の機構改革をしています。

そんな中で、どういう風にしたら国連人口基金のスタッフがその能力を発揮できるか、そして結果的に、それが受益者である途上国の人たちに最良のインパクトを出せるか、という事を考えて仕事をしています。

具体的には、中長期要員需給の策定や、必要な人材要件の分析をして将来的にどんな人材が必要なのかなどを分析し提案する仕事をしています。

例えば、Sustainable Development Goalsの実現のためにはこれまで一般的とされていた国連職員像と違った人材が必要とされるかもしれません。

また人事を含めバックオフィス部門のアカウントビリティを求められる潮流が国際機関にも見られるようになる中、人事部の効率性、人事戦略の進歩を評価する指標策定等も担当しています(※これは、戸崎さんが大手石油会社からの経験を元につくりあげた人事システムです)。

②いつ頃、国際機関で働こうと思いましたか？

もともと貧困削減や途上国の発展と開発、途上国での人材育成などに興味がありました。

中東、アジア諸国には仕事やプライベートでよく行っており現地事情には詳しくなりました。

直接的には、2013年に東京で開かれた国連合同就職説明会（アウトリーチミッション説明会）に行ったことがきっかけです。

そこで、今の上司の人事部長マイケルエメリー(Michael Emery、上記写真右)に出会った事で人事の専門職として国際機関で働きたいと確信しました。

③どのような学歴をお持ちですか？

1998年に早稲田大学政治経済学部を卒業して、2005年にジェトロ・アジア経済研究所開発スクール(JETRO-IDEAS、通称「アジ研」)開発経済学ディプロマを取得して、その後2007年にコーネル大学で人事管理修士号を取得しました。

コーネル大学院に通っている時の1年目と2年目の夏休みに、GE本社でインターンをしました。この時点でグローバルに活躍したいという意識がありました。

④国際機関に入る前はどのようなお仕事をしてきたのですか？

早稲田大学を卒業後、事務系総合職として日本の大手鉄道会社に入社し数年間勤務してビジネスの基礎を学び、最後の2年間は人事の仕事をしていました。

その後、留学を経て大手石油会社の人事のスペシャリストとしてシンガポール法人で2年勤務、そして、米国テキサス州のヒューストンをベースに7年間働いていました。

国際機関に入る前は、合計で約14年間民間企業で勤務していたこととなります。

⑤どのようなキャリアを積まれましたか？

14年間、国連以外の会社で勤務していましたが、日本の会社では、ビジネスの基礎を学びました。

石油会社の仕事では、採用、人事戦略の策定、トレーニング、社員のキャリアマネジメントのプランニングなどをしていました。

この会社は、全世界で8万人以上が働く多国籍会社で、私はテキサスをベースに全世界の石油ビジネスを担うユニットの人事ビジネスパートナーとして働いていました。

これが、国連で働くバックボーンになっています。



⑥どのような方法で国際機関に入りましたか？

以前より興味があった国際開発の分野において人事専門家として関わりたいという思いから、国連合同就職説明会に参加しました。

そして、自分でも十分貢献できると確信し、国際機関で働くことを決意、空席広告を定期的にチェックし応募を続けました。

いろいろなポストを受けて約1年後、筆記試験、英語での電話面接などを受け、現職を獲得しました。

(※空席広告の見方を教えてもらいましたが、その空席広告の各機関のサイトに行くと、詳しく詳細が書いてあり、自分が応募できる職種、グレードがわかるそうです。)

⑦今後のキャリアについてどのようにお考えですか？

国際機関の人事の専門家は様々な機関を経験しながらキャリアを積んでいくケースが多いので、中期的には、私も他の機関でさらに経験を積みたいと思っています。

そして長期的には、自分が国連機関に入るきっかけをつくってくれ、現在も私のメンター、ロールモデルでもある現上司のマイケル・エメリーのような人事部長になりたいと思っています。

彼は、明確なビジョン、強力なリーダーシップがあり、国際機関での人事に精通している一方、人間的にも素晴らしいので、各方面から非常に人望のある人です。

自分も人事の専門家としてそういう風になりたいと思っています。



⑧国際機関を目指している方にメッセージをお願いします！

ミッドキャリアとして国連に入った日本人としては、日本で働いている人でも海外で働いている人でも、すでに国際機関の業務に関連する分野で活躍している人たちには、是非国際機関を志望してほしいと思っています。

年齢制限でJPOを応募できない人でも、空席ポストほどの機関にも常に存在し、経験レベル、職種、任地等多岐にわたるので、粘り強く機会を探っていただきたいと思っています。

今日本にいる人については、できるだけ日々英語を使ったり、日本以外のバックグラウンドを持っている人と関わっていくことで国際感覚を磨くことが大切です。

そして、是非国連合同就職説明会等、国際機関でのキャリアに触れる機会に参加して、現役職員や人事担当者とのネットワーキングをつくって、情報を得たり、インスピレーションを受けてほしいと思います。

⑨ 今回の取材を振り返って。
感じたこと。

アメリカで育ったわけでもなく、英語も自力で勉強して、大学まで海外経験がない戸崎さんの英語力とそして行動力に圧倒されました。

とても勤勉で努力家だなと感じました。今の国連人口基金本部には、日本人ただ一人なのにもかかわらず、グローバルに世界の中心で活躍する姿がとても頼もしかったです。

そんな中、彼が大事にするものは、人との出会いだと感じました。

戸崎さんのお話を聞いて、大学院やインターン中の出会い、石油会社での様々な出会い、そして国連人口基金のマイケルさんとの出会いで戸崎さんのキャリアが築かれてきたんだなと感じました。

マイケルさんも、戸崎さんのユニークな経験をととても評価していましたし、今の国連人口基金にも素晴らしい貢献をしているとおっしゃっていました。

国連で働きたいと思っている人は、日頃からネットワークを拡大させ、ぜひ人生の色々なステージでの出会いを大切にしてほしいと思います。

国連合同就職説明会にも参加してほしいですね！そこで、人生が変わるような出会いがあるかもしれません。



小池絵未 (Emi Koike)

1983年11月7日生まれ。東京都渋谷区出身。

高校から競技チアを開始し、3年連続で日本選手権大会第3位。米国ウェスタン・ケンタッキー大学に進学。大学のチアダンスチームに所属し、2005年全米大学チア・アンド・ダンス選手権で優勝。

その後、NHLナッシュビル・プレデターズ、アトランタ・ホークス、NHLアトランタ・スラッシャーズのダンスチームのメンバーとして活躍。2011年からはNFLのチアリーダーとしてニューヨーク・ジェッツで活躍。

NFL、NBA、NHLの米国3大スポーツリーグでチアリーダーに選出されるのは、日本人としては史上初。2013年チアリーダーを引退し、日本テレビ NFL倶楽部の現地リポーターとして活動中。ニューヨーク在住現地スポーツリポーターとして、NFLだけでなく、NBA、MLBの取材にも携わっている。

外務省 国際機関人事センターNewsletter
「小池絵未のNY発国際機関探訪」VOL.3

出演：戸崎 智支 国連人口基金 (UNFPA)
本部人事部人事分析官

取材地：NY

2016年10月26日発行



外務省 国際機関人事センター

jinji-center@mofa.go.jp / 03-5501-8238

<http://www.mofa-irc.go.jp>



<https://www.facebook.com/MOFA.jinji.center>

